

16 教育を通じた人材育成

1 概要

子供たちに、「ボランティアマインド」・「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」という5つの資質を育成するために「東京ユースボランティア」・「スマイルプロジェクト」・「夢・未来プロジェクト」・「世界ともだちプロジェクト」の4つのプロジェクトを推進する。

共生社会の実現に向けて、教育を通じた障害者への理解促進を図るとともに、相手を思いやる態度や共助の心など、ボランティアマインドを醸成する。また、グローバル社会の中で活躍できる国際的な人材を育成するため、異文化理解と国際交流を推進し、英語力向上や日本人としての自覚と誇りを涵養する教育を展開する。

2 レガシーの概要

オリンピック・パラリンピック教育に関わる体験や活動を通して、子供たち一人一人の心と体に、人生の糧となる掛け替えのないレガシーが残される。

また、各学校において、蓄積されたノウハウ等を活用し、多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティアなどの取組が、大会後も長く続く教育活動として発展している。

さらに、ボランティアマインドの醸成や障害者理解の取組を子供だけでなく、家庭や地域の大人たちへ波及させ、共生・共助社会の形成につなげる。

利害関係者	区市町村教育委員会、東京2020組織委員会、JOC、私立学校関係団体 等
種別	文化・教育
地理的範囲	東京都
期間	長期
実施主体	東京都
根拠	立候補ファイル、2020年に向けた実行プラン、「未来の東京」戦略
関連するSDGs	4-教育

3 詳細な説明

(1) 背景

学術、文化、経済など様々な分野でグローバル化が進展する中、東京が将

来にわたって発展していくためには、共生社会を実現する必要がある。

そのためには、これからの時代を生きる子供たちが、多様な価値観を持つ人々と協力・協働しながら課題を解決する力や、外国人とも積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、日本人としてのアイデンティティなど、豊かな国際感覚を身に付けていくことが重要である。友情、連帯、フェアプレーの精神に基づく相互理解などのオリンピズムの精神と学校教育には相通ずるものがあることから、東京都オリンピック・パラリンピック教育として展開することとした。

(2) 時期

2014 年度	<p>「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議」発足</p> <p>※東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催に向けて、教育に係る東京都の取組の基本理念や方向性、具体的施策を検討するため設置</p> <p>オリンピック教育推進校を 300 校指定</p>
2015 年度	<p>オリンピック・パラリンピック教育推進校*を 600 校指定し、先導的にオリンピック・パラリンピック教育を試行</p> <p>『『東京都オリンピック・パラリンピック教育』実施方針』策定</p> <p>※「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議」の最終提言を受け、東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育を、都内全学校で展開していくため策定</p>
2016 年度	<p>都内全ての公立学校（約 2,300 校・約 100 万人）で、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」を本格的に開始</p> <p>4つのプロジェクトの取組を推進</p>
2017 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育アワード校（事業推進部門）の顕彰開始 ・「東京ユースボランティア・バンク」の開設 ・パラリンピック競技応援校（競技団体連携型）の指定開始 ・夢・未来プロジェクトの実施校数拡大 ・大使館との交流促進 ・スクールアクション「もったいない」大作戦開始 など
2018 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育アワード校（環境部門）の顕彰開始 ・「都立高校生等によるボランティア・サミット」を開催 ・被災地等と連携したパラスポーツ体験交流を実施 など

2019 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック競技応援校（観戦促進型）の指定開始 ・ボッチャ交流行事推進事業の開始 ・文化プログラム・学校連携事業実施校の指定開始 など
2020 年度	各学校にて、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、オンライン実施や映像配信型プログラムを活用するなどし、オリンピック・パラリンピック教育を継続して実施

（3）実施主体

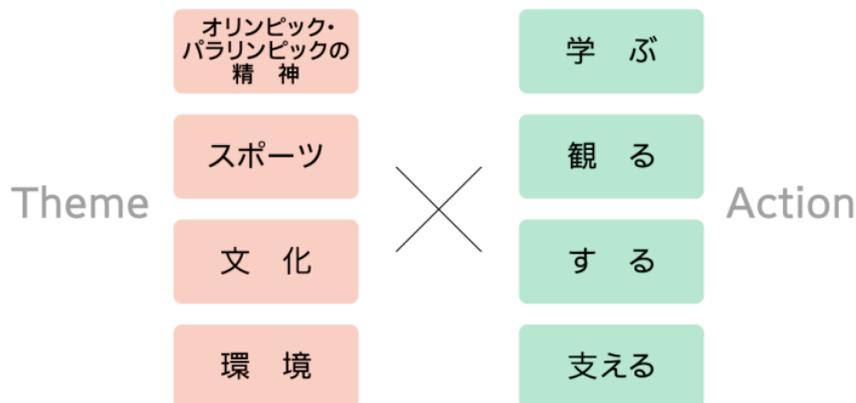
東京都

(4) 実施方法

【東京都オリンピック・パラリンピック教育の概要】

＜4×4の取組*＞^[1]

以下4つのテーマを設定し、4つのアクションを組み合わせた多彩な取組を実施する。



＜重点的に育成すべき5つの資質＞

「4×4の取組」を進める中で、以下の資質を重点的に育成する。

①ボランティアマインド

社会に貢献しようとする意欲や、他者を思いやる心などを醸成するとともに、子供たちの自尊感情を高める

②障害者理解

多様性を尊重し、障害を理解する心のバリアフリーを子供たちに浸透させる

③スポーツ志向

フェアプレーやチームワークの精神を育み、心身ともに健全な人間へと成長させる

④日本人としての自覚と誇り

日本や東京の良さを十分理解するとともに、規範意識や公共の精神等を学び身に付けさせる

⑤豊かな国際感覚

世界各国の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、世界の多様性を受け入れる力を育てる

[1] 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針【概要版】(東京都)

<4つのプロジェクト>

「重点的に育成すべき5つの資質」を伸ばすため、以下のプロジェクトを推進する。

- **東京ユースボランティア**

発達段階に応じたボランティア活動を行い、各学校における社会奉仕の精神や思いやりの心を養う取組

- **スマイルプロジェクト**

子供たちが、お互いの人格や個性についての理解を深め、思いやりの心を育成する取組

- **夢・未来プロジェクト**

子供たちがオリンピック等と直接交流することで、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさを実感し、スポーツへの関心を高めるとともに、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培う取組

- **世界ともだちプロジェクト**

東京2020大会参加予定国・地域を幅広く学び、実際の国際交流に発展させる取組

- ボランティアや競技観戦など、体験や活動を通じて学ぶ機会を提供する。
- 障害や病気により会場での観戦が困難な子供たちに、先端技術を活用し、大会をリアルに楽しめる機会を提供する。
- 優れた文化・芸術に広く触れる機会を創出する。
- オリンピック・パラリンピック教育アワードにより、各校の優れた取組を表彰することで意欲の向上と普及啓発を図る。
- 各学校と外部機関・団体等をつなぐコーディネート事務局を設置し、各学校において、多種多様な教育プログラムに取り組めるよう支援する。

① ボランティアマインド

- 社会奉仕の精神や思いやりの心を育むために、中学・高校生の主体的なボランティア活動を促進する仕組みを構築する。(東京ユースボランティア)
- 全都立高校等が参加したボランティア・サミットで生徒たちが定めたボランティア宣

<ボランティアマインド> [2]



[2] 「未来の東京」戦略ビジョン（東京都）

言の下、オリンピック・パラリンピック後も各学校で継続してボランティア活動を実践するため、各学校でボランティアサポートチームを編成し、卒業後も地域や企業等で様々な社会貢献活動に主体的に参加できるように、ボランティアマインドの醸成を図る。(東京ユースボランティア)

② 障害者理解

- 特別支援学校と小・中・高等学校による「東京都公立学校パラスポーツ交流大会」の開催や、パラリンピック競技応援校の指定、パラスポーツ指導者講習会の実施を通してパラスポーツの普及を促進する。(スマイルプロジェクト)
- 修学旅行等で東京を訪れる被災地の中学生と、都内公立中学校の生徒とのパラスポーツ体験を通じた交流を推進する。(スマイルプロジェクト)

<障害者理解> [3]



③ スポーツ志向

- 学校に派遣したオリンピック・パラリンピアン等との交流を通じ、児童・生徒がアスリートの考え方や生き方に触れることで、自己実現に向けた努力や困難に立ち向かう意欲を培う。(夢・未来プロジェクト)

<スポーツ志向> [4]



④ 日本人としての自覚と誇り

- 外国人と児童・生徒が地域行事等を通じて交流し、日本文化を紹介する機会等を設ける。(世界ともだちプロジェクト)
- 公立学校に専門家を招へいし、日本の歴史・伝統・文化の教育を推進する。

<日本人としての自覚と誇り> [5]



⑤ 豊かな国際感覚

- 子供たちが参加国・地域について学習・体験する機会をつくり、異文化理解や自他を認め合う心を育成する。(世界ともだちプロジェクト)
- 国際交流を促進するため、各公立学校のニーズに応じてきめ細かな支援を行う国際交流コンシェルジュを創設した。

<豊かな国際感覚> [6]



[3][4][5][6] 「未来の東京」戦略ビジョン (東京都)

(5) 便益

「4×4の取組」を都内全公立学校に展開し、オリンピック・パラリンピック教育を推進することで、主体的にボランティア活動に取り組む高校生・中学生が増加するなど、子供たち一人一人に、多様性を尊重する意識・態度や国際感覚が醸成され、国際社会に貢献するとともに、東京、日本の更なる発展の担い手となる人材が育成される。各学校に蓄積されたノウハウ等は、大会後も長く続く教育活動として発展させるため活用される。また、取組を家庭や地域へ波及させることで、共生・共助社会の形成につながる。

4 事実と数字

4テーマ×4アクションに基づく取組の展開(4プロジェクトを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育推進事業(全公立学校) ・オリンピック・パラリンピック教育アワード校の指定(180校) ・東京都公立学校パラスポーツ交流大会開催 ・パラリンピック競技応援校の指定(50校) ・パラスポーツ指導者講習会(14回) ・夢・未来プロジェクトの実施(公立300校、私立15校) ・スクールアクション「もったいない」大作戦(全公立学校) ・被災地等と連携したパラスポーツ体験交流の実施 ・ボッチャ交流行事推進事業の実施(2地区) ・文化プログラム・学校連携事業の実施(173校)
主体的にボランティア活動に取り組む高校生・中学生の増加(「東京ユースボランティア・バンク」への登録)	573校延べ約17.9万人(学校単位での登録制度として開設)

(2019年度実績)

5 用語説明

オリンピック・パラリンピック教育	東京都が指定し、オリンピック・パラリンピック精神の学習、スポーツに親しむ取組、国際理解教育や
------------------	--

推進校	国際交流、日本の伝統・文化の継承、障害者スポーツの理解等の学習に取り組む学校
4×4の取組	「オリンピック・パラリンピックの精神」と、オリンピック・ムーブメントの3つの柱「スポーツ」、「文化」、「環境」を合わせた4つのテーマに、「学ぶ（知る）」「観る」「する（体験・交流）」「支える」の4つのアクションが組み合わされた多彩な取組。東京都オリンピック・パラリンピック教育の基本的枠組となっている

6 参考文献

- ・2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（PR版）
- ・2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－（本編）
- ・都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（平成30年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2019年度）
- ・「3つのシティ」の実現に向けた政策の強化（2020年度）
- ・「未来の東京」戦略
- ・「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針